

第2回 建設候補地選定専門部会 会議録

開催日時：平成23年10月24日（月）10時～12時

開催場所：町田市役所 森野分庁舎

出席委員：（敬称略）

松波淳也、稲木健志、百武ひろ子、粕谷羊三、高橋倫正、金田剛、大谷公二、
高木康夫、佐藤正志、富岡秀行

傍聴者：0名

《次第》

開会

1. 第1回専門部会議事要旨及びご質問に対する回答等
2. 建設候補地選定の手順と作業計画（スケジュール）
3. 建設候補地一次選定（案）
4. 関連して取り扱う事項について
5. 事務連絡

閉会

＜配布資料＞

資料1：建設候補地選定専門部会 第2回会議資料

資料2：参考資料 一次選定（案）の根拠

資料3：参考資料 町田市資源循環型施設整備基本計画策定から施設建設までのながれ

資料4：「ごみ処理広域化の現状について」北アルプス広域連合

資料5：「一般廃棄物中間処理施設（ごみ焼却施設）建設候補地を公募します」佐久市

資料：第1回 建設候補地選定専門部会 会議録

＜別添資料＞（前回までに配布）

- ・町田都市計画図
- ・町田市洪水ハザードマップ

＜当日配布資料＞

- ・建設候補地の選定に関する意見募集について（案）
- ・町田リサイクル文化センター施設面積資料

第2回 建設候補地選定専門部会議事録概要

1. 開会

2. 第1回専門部会議事要旨及びご質問に対する回答等

(事務局)

第1回施設整備基本計画検討専門部会では、「焼却炉とメタン化施設は、一体に整備するのが合理的である。」という考えが提示された。これはメタン化施設で生じた残渣を焼却炉で処理できること、メタン化施設は発酵のために高温を維持する必要があるが、その熱源を焼却炉に求めることができることなどによる。

3. 建設候補地選定の手順と作業計画（スケジュール）

〔補助金申請時期の変更に伴うスケジュールの変更について〕

(事務局)

2013年に国に補助金の交付申請するために、2012年12月には循環型社会形成推進地域計画を国に提出する必要がある、そのため地域計画の作成・提出は当初の予定より一年前倒しすることとなった。この地域計画に載せる施設の情報は施設の大まかな規模、台数、場所によいため、建設候補地の選定の時期は、当初の2012年2月から2012年4月くらいまで検討機関が延長となった。

(金田委員)

補助金の交付内示の時期が一年前倒しとなったことが、専門部会の検討スケジュールに影響を与えるのか。

(事務局)

この地域計画はあくまで行政が作って提出するものであり、専門部会のスケジュールに大きな影響を与えるものではない。2012年4月の段階で最終決定したものを行政でまとめ、それを地域計画に記入して提出する。両専門部会で方向性が出ていれば、それを地域計画に記入する。

(高橋（倫）委員)

その地域計画提出のために、選定作業はどこまで詰めればよいのか。委員会で最終決定をすればそれでよいのか。住民説明などもある。どこまでクリアすればよいのか。

(事務局)

住民への理解が得られていることが条件である。2012年12月までに住民の了解が得られていない場合は先送りとなる。地域計画の申請自体は毎年行われているが、高効率型（効率が17、18～20%以上、通常タイプの効率は10%）の発電施設の申請は時限措置となっている。2012年12月までに申請すれば国の補助の割合は1/2だが、それを過ぎると補助の割合が1/3に下がる。発電施設と焼却施設はセットで考えるべきものであり、焼却施設の候補地もそれまでに決定しなければならない。

(稲木委員)

2012年12月に合わせてスケジュールを組まなければならない。一番重要なのは住民の合意が得られるかである。会議を頻繁にするなどしないと間に合わないのではないか。

(事務局)

整備基本計画専門部会が来週開かれるので、その後に調整する。

【二次選定以降のスケジュールについて】

(百武委員)

二次選定まではもめないと思うが、それ以後は住民の理解、協力が難しくなってくるのではないかと考えている。3月に三次選定評価(案)、4月に建設候補地選定の完了というのは、時間的な余裕が少なくコミュニケーションが不足すると思われる。また建設候補地の住民も、施設の運営計画について一緒に考えたり、参加したりするのか。

(事務局)

合意形成には時間をゆっくりかける必要があることは理解しており、広報や意見交換に比重を置きたいと考えている。高効率型発電施設を目標にこのスケジュールを立てており、4月を選定の目処としている。意見交換、意見募集、パブリックコメント等を進めていく過程で、理解が得られるかどうかによってスケジュールがずれ込む可能性は視野に入れている。あくまでも目安としてのスケジュールである。

施設整備計画に関しては施設整備部会との整合性をとる必要がある。場所と設備は今分かれて議論されているが、最終的には両部会を一つにまとめ検討委員会で議論し、方向性を確認していきたい。

(百武委員)

一次選定は機械的なプロセスであり、二次選定以降に意見が発生する。一次選定までは期間を短く取り、二次選定や最終決定に時間をかけるというようなバランスが必要である。現行スケジュールでは二次選定、三次選定の時間が短い。

(大谷委員)

実際に候補地をこの場所にするという発表があった時点で、その地域の人から反発も含めた意見が出てくるはずである。それからの時間をたっぷりとるべきである。

(事務局)

意見を参考にしてスケジュールを検討する。

(百武委員)

「選定」と「決定」の定義を明確にすべきである。「決定」は施設の内容も含めて合意がとれた段階だと思う。

(高橋(倫)委員)

二次選定から三次選定で評価をするという段階になるとかなり適地が絞られる。例えば、三次選定で適地が1箇所絞られてしまった場合、施設を2箇所あるいは3箇所に分けるという方針があった場合は、また一次選定からやり直すことになるのか。

(事務局)

焼却炉とメタン化施設は一緒の場所に置くということが第1回施設整備基本計画検討専門部会で言われているが、この面積が一番大きい。この選定のプロセスは面積を最も多く必要とするものを基本とする。面積が小さい他の施設に関しては、施設整備基本計画検討専門部会の議論内容や決定事項に応じて、別のプロセスに基づく可能性がある。

【整備基本計画専門部会について】

(金田委員)

建設候補地が決定する2012年4月よりも後に、整備基本計画専門部会において処理フローや処理方式等が決定するとなっているが、順序が逆なのではないか。

検討委員会のときに施設は2箇所でも可能であるという話があった。施設を1箇所にするか2箇所にするかということは両専門部会がやりとりをしながら決まっていくはずなのに、そのやりとりをせずに候補地を2012年4月に決定するというのは順序が違うのではないかと懸念している。

(事務局)

両部会でやりとりをしながら検討を進める。このスケジュールはあくまで目安である。

(稲木委員)

整備基本計画専門部会のスケジュールは後手後手になっていて、かみ合っていないのではないか。施設基本計画が決定するのが、2012年11月となっている。

(佐藤委員)

今のスケジュールでは4月まで両部会が並行して議論しているが、2つの専門部会を1つにしてそこで検討委員会としての結論を出す場を設けるべきである。

〔広報について〕

(佐藤委員)

広報の主体は専門部会なのかそれとも検討委員会なのか。

(百武委員)

広報の主体は検討委員会とすべきである。意見募集の内容も、候補地選定だけでなく施設のあり方についても聞くべきである。広報まちだ掲載(案)において意見募集の内容は全て評価の視点に関するものであり、3つの質問の違いがわかりにくい。選定の考え方(評価の視点)、選定の進め方、施設及び周辺環境への配慮、その他について住民に意見募集するのがよいではないか。この掲載(案)には2012年5月に候補地決定という記述があるが、候補地が決定してから施設計画を考えるのは腑に落ちない。また、いつごろ一次選定、二次選定を行うのか明記すべきである。

(松波部会長)

質問の内容が施設整備のことも含むとなると、整備基本計画専門部会での協議が要る。

(佐藤委員)

先に候補地のことに関してだけ意見募集するのはいかがなものか。この意見募集とパブリックコメントなどとの位置づけを整理する必要がある。

(稲木委員)

一番影響力があるのは、広報まちだである。これを使って施設の必要性を特集で扱うのはいかがか。

(事務局)

11月11日号で特集を行うのは困難である。11月11日号に関しては枠だけ決まっている。枠を維持したまま中身、文言を修正するというのであれば可能である。特集に関しては、環境資源部で発行している環境広報 eco まちだであれば特集は可能であり、全戸配布もできる。施設整備のことについて言及し、主体を検討委員会名とする場合、10月30日に行われる整備基本計画専門部会の場で確認が必要である。その場合、具体的な掲載内容については両部会に諮らずに掲載することになってしまう。

(佐藤委員)

広報を行うのは12月号でもよいのではないか。

(宗田部長)

部会名ではなく委員会名で広報を出すべきである。広報まちだは年間のスケジュールが決まっており、広報の枠が取りにくい。一次選定の段階からプロセスを透明化するという観点から、出来るだけ早く広報することが大事である。詳細な内容は環境広報 eco まちだに掲載するということもありえる。広報まちだで特集を組むというのは、枠が厳しく難しい。環境広報 eco まちだで対応する。

(事務局)

掲載する内容については委員会の会長には確認済みである。文言を変えたり、スケジュール等を直し

たりした上で、委員会名で出してよいか確認する。11月11日号に載せ、早めの周知を図りたい。

(松波部会長)

委員会名で掲載することをお願いしたい。整備基本計画専門部会での確認をお願いする。一次選定結果のマップも広報で示す。

4. 建設候補地一次選定(案)

〔選定条件について〕

(金田委員)

町田市防災課から、断層が町田市内を通っている可能性があり、調査をするということを聞いた。断層がないという説明は防災課の話と矛盾する。

(事務局)

本選定は国土地理院の都市圏活断層図に基づいた。防災課に確認をとる。国土地理院がどの時期に町田の調査をしたのかも確認する。

(高橋(倫)委員)

井戸があれば確認をしてほしい。

(事務局)

次回の部会で報告する。

(百武委員)

大学のキャンパスなど、常識的に考えて明らかにおかしいものは一次選定の段階で除外すべきではないか。一次選定そのものへの疑問につながるのではないか。

(事務局)

一次選定はあくまで法的条件で考えている。

(高橋(倫)委員)

本資料を公開する場合は、一次選定の条件に、誤解が生じないようにしっかりと説明を加えるべきである。

(高橋(倫)委員)

都市計画図と照らし合わせた場合、町田リサイクル文化センターの形がこれでいいのかという問題や大学等も入ってしまっているという問題があり、一次選定案は公開する前に精査すべきではないか。

(事務局)

細かい点については精査していきたい。選定作業は50mメッシュで行っており、それより細かいエリアはエリアとして区分されない。あくまでも客観的な手順で公平にやっている。ある特定の施設が入っているからといって除外するという事はしていない。最初に法的規制を選定条件として示したい。

〔一次選定に関するマップ等の資料の公開の是非について〕

(松波部会長)

一次選定は客観的な条件で行っているので公開してもかまわないものではあるが、この情報が一人歩きするのは危険であるという意見もある。

(百武委員)

一次選定に関するマップ等の資料は公開すべきである。このような手順で考えているということを見せる必要がある。公開しなければ市民がプロセスに対し疑心暗鬼になる可能性がある。

(高橋(倫)委員)

この委員会は公開である以上、資料も公開になるのではないか。

(富岡委員)

公開が原則である。市民のみなさんに知ってもらうことが第一である。

(稲木委員)

ただ資料を公開するのではなく、手順を踏んで行うべきである。

(松波部会長)

公開するという方向で話を進める。公開のやり方は工夫する。

(高橋(倫)委員)

住宅地域について原則的に除外すると書いてあるが、マップ上に着色されていないから安心したという心理を醸成してしまうというのはいかがなものか。例外的に除外しない場合はないのか。

5. 関連して取り扱う事項について

(稲木委員)

国の補助金 1/2 というのは、周辺の環境、景観、付帯機能にも適用されるのか。

(事務局)

付帯機能には明確な基準がなく、補助金は付かない。自治体がこれらの整備にかかった費用の負担をする。

(百武委員)

周辺の環境、景観、付帯機能については、ある程度地区が決まってから、地区の人たちが何を望むのかを踏まえて議論をすべきではないか。

(稲木委員)

施設ができて周辺環境がこんなによくなるということも、住民に周知すべきである。安心感を持たせるためにも非常に重要である。

(大谷委員)

小山田地区では、隣接している多摩市に焼却施設がある。隣の市にある焼却施設のことも考慮に入れてほしい。

(富岡委員)

悪い点ばかり挙げられるが、町田リサイクル文化センターが出来てよかった点はないのか。

(大谷委員)

田んぼが使えなくなった等の被害があり、地元としてはよかったことはない。小山田地区は迷惑施設ばかりで困っている。

(稲木委員)

地元への環境配慮もしっかりとしていく必要がある。

(高橋(倫)委員)

全くよいことがないというのはあるのか。道路整備や雇用などメリットはあるはずで、よい面はしっかりと出していくべきである。

(金田委員)

メリットといっても、原子力発電所の立地のときのような発想、やり方はよろしくない。

(高橋(倫)委員)

メリットとデメリットを両方示していくべきである。

(粕谷副部長)

図師町に関して道路が整備され、アクセスがよくなり、人の交流が多くなって周辺がにぎやかになるなど、メリットはあった。中間処理施設の説明会のときも反対はなかった。

(大谷委員)

町田リサイクル文化センターは地元での雇用を行っている。図師町は道路整備等があるが、小山田は通学路を含め道路整備が進んでいない。

(高木委員)

小山田桜台では施設に隣接していることからごみの意識が高まった。これはメリットではないか。

(松波部長)

迷惑施設とはいえ公共施設なので、住民の負担がある場合にはケアが必要である。

6. 事務連絡

今後の建設候補地選定部会の開催日程候補日は以下の通りである。

- ・第3回 参考事例施設見学会 11月25日 13:00～
(ふじみ衛生組合のストーカー炉及び高効率発電設備施設、世田谷工場のガス化溶融炉)
- ・第4回 12月14日 14:00～ 森野分庁舎

7. 閉会